

鴻沼川流域整備計画

鴻沼川流域総合治水協議会

鴻沼川は、さいたま市北部の大宮台地を水源・流域とし、台地の谷底低地から荒川低地に流れ込み、鴻沼樋門を経て鴨川に合流する流域面積14.45km²、流路延長10.1kmの一級河川である。流域の宅地化が急速に進んでいる鴻沼川流域では、流域から河川への流出量が増大する一方、河川が未整備である。さらに急激な市街化に伴い、水田や畑が減少し、流域の保水・遊水機能が低下していることによって、常に水害の危険に脅かされている状況となっています。このような状況から、平成8年1月に「鴻沼川流域総合治水対策協議会」を設置し、平成9年10月に「鴻沼川流域整備計画」を策定しました。

過去の浸水実績一覧表

	昭和57年 台風第18号	昭和61年 台風第10号	平成3年 台風第18号	平成5年 台風第11号	平成8年 台風第17号
時間雨量 (mm)	46.0	32.0	25.0	22.0	24.5
24時間雨量 (mm)	220.0	200.0	222.0	194.0	194.0
浸水面積 (km ²)	2.19	2.25	2.11	0.84	1.86
床上浸水 (戸)	931	312	623	234	509
床下浸水 (戸)	2799	1058	2473	1752	748
合計 (戸)	3730	1370	3096	1986	1257

総合的な治水対策

埼玉県では、昭和40年代、50年代、県南部から急速に都市化がすすみ、保水・遊水機能が極端に減少しました。

これにより、洪水流量が増大し、水害が起きやすくなっただけでなく、流域の人口や資産が増えたため、水害の程度が重くなってしまいました。

例えば、区画整理等の開発行為により、地表面が締め固められたり舗装されたりすると、保水機能や遊水機能が減少します

- ・保水機能…雨水が浸透し滞水層に一時的に留まる機能。地表面の浸透能力が高い山地や台地は高い保水機能を有しています。
- ・遊水機能…降った雨や川からあふれた水が一時的に滞留する機能。特に田んぼは高い遊水機能を有しています。

このような流量増加への対策には、河道や治水施設の整備だけでは追いつかないため、下水道整備や雨水貯留施設の整備等流域対策と併せた治水対策に取り組んでいます。

治水対策＝河川整備＋流域対策

